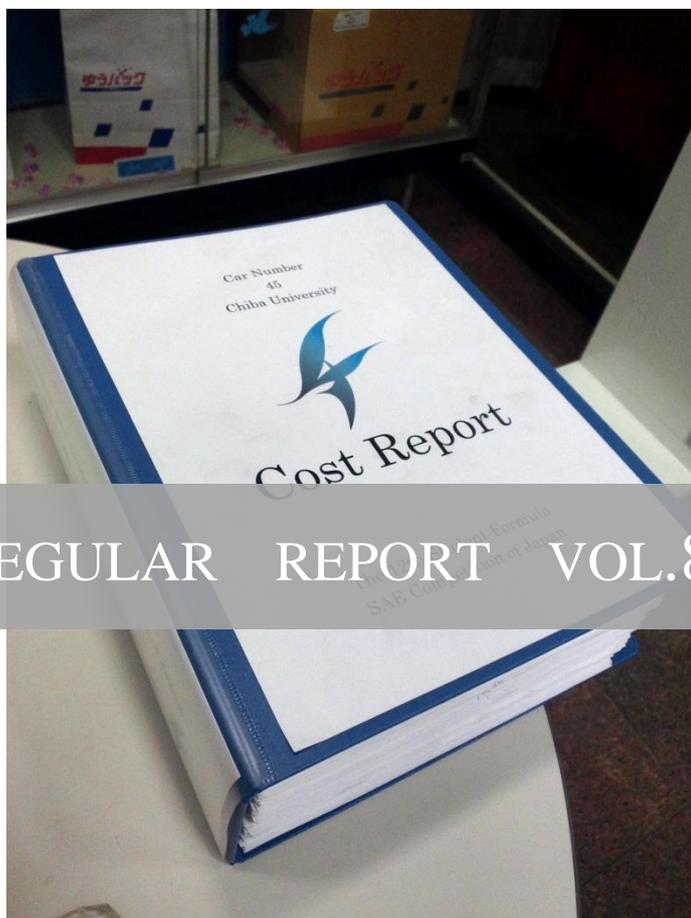


2014 年 7 月



CUFP

REGULAR REPORT VOL.8

Chiba University Formula Project 2014

CF14 設計・製作レポート

今月も、開発、および設計製作の現状をお伝えいたします。

1. 塗装

角田 有(情報画像学科3年)

予定されていた塗装は 8 割方終わりました。フレームが塗り終わった時点で塗料が足りなくなってしまったことと、コスト審査のための提出資料の締切が迫っていたころから、残っていたアームの塗装を見送りました。

塗装の準備として、マシンの錆落としを 1 年生が主立って行いました。錆が目立って来ていたマシンは、見違えるようにきれいになりました。また例年 CUFP では、スプレー缶の塗料を使っていましたが、今年度はコンプレッサーを用いて塗装を行ったため、コストカットが出来ました。



活動レポート

ここではチームの活動について紹介していきます。

1. 工学部同窓会

桂 祐樹(機械工学科4年)

私たち、千葉大学フォーミュラプロジェクトは千葉大学工学部同窓会様より、「学生支援課外活動奨励賞」をいただきました。

そのため 2014 年 5 月 30 日に行われた工学部同窓会総会にて表彰をしていただき、加えてそのときに私たちの活動報告を行いました。私自身 2014 年度の活動が始まってからリー

ダーとして多くのプレゼンテーションをさせていただきましたが、今回の総会の場が聞いている方の人数が1番多い場であったので、少なからずプレッシャーはあったのですが、大人数の前でのプレゼンテーションをさせていただく貴重な経験ができたのではないかなと思います。

また、このような表彰をしていただいたことに感謝し、今後もより一層この活動に取り組んでいこうと思います。



2.デザイン審査

上野 涼(機械工学科4年)

デザイン審査に必要なデザインレポートと、車両の諸元表を6月11日に大会に提出しました。デザイン審査は車両の“設計の適切さ”が審査される静的競技で、事前に書類を提出し、大会での審査員とのディスカッションを行い150点満点で採点されます。

CUFPでは、昨年度(CF13)の総合47位の雪辱を晴らすべく、昨年度の活動を見直しました。直接の原因はマシントラブルでしたが、問題の根本は“好成績を収めたCF12の正常進化”という曖昧なコンセプトのままCF13を設計してしまい、結局何が良かったのか分からなくなってしまったことにあると考えました。今年度(CF14)ではその反省から、1か月近くかけてメンバー全員で会議を行い、コンセプトから具体的な個々の方針・年間予定を決定し、1つのコンセプトに基づいた活動を心がけています。

各パーツをコンセプトに基づいて設計したので、CF14のデザインレポートは昨年度よりも統一感があるレポートになったと思います。CF14に対して考えたことは全て伝えたいという思いから、ルールの限界まで文字を詰め込んだ、読み応えのあるものになりました。

今後は大会のディスカッションに向けて、ポスターとプレゼンの準備をします。昨年度は大会直前がバタバタして、ディスカッションはほとんど準備せずに審査を迎えてしまったので、今年は万全の準備をして1ケタ順位を目指したいです。



3.コスト審査

石本 祥之(機械工学科2年)

全日本学生フォーミュラ選手権の静的審査の一つであるコスト審査に向け、去る6月20日にコストレポートを提出いたしました。

昨年まで使用していた活動場所が今年から使用できなくなり、新たな活動場所を見つけることから始まったコストですが、経験豊富な先輩方の尽力により期限内に無事提出することができました。

コストレポートの内容ですが、NA化を主とする昨年度マシンからの大幅な変更のため、車両単価が20,000ドルを割るというコスト削減に成功いたしました。

コストレポート提出は終了いたしました。このコストレポートで算出した車両単価を用いたビジネスロジックケース、大会までに行わなくてはならないアデンダム・リアルケースシナリオなどの提出物はまだ残っています。今後とも書類管理を徹底し、不備のないように準備してまいりたいと思います。

15 年度リーダー挨拶

来年度の CUFP におけるリーダーが決定いたしました。以下、15 年度リーダーより挨拶を掲載いたします。

この度、2015 年度のリーダーを勤めさせていただくことになりました、工学部機械工学科 2 年の小川和也です。

現在、千葉大学フォーミュラプロジェクトでは、2014 年度のプロジェクトと平行して 2015 年度のプロジェクトを進めています。2015 年度のプロジェクトを円滑に進めていくために、毎週のミーティング終了後、まずは来年度のコンセプトから日程等の話し合いを徐々に進めています。今年度は新入生が多く入り、来年度はほぼ半分が 1 年生という体制になるためじっくりと時間をかけて話し合いを進めています。

これから体制が大きく変わっていくので今年度よりさらに難しい年になるかもしれませんが知識・技術の習熟を目指し全員一丸となって活動していける指針を立てられるようにがんばっていきたいと思います。

機械工学科 2 年 小川 和也

スポンサー

私達、千葉大学フォーミュラプロジェクトの活動は以下の企業、団体様よりご協力いただいております。このような貴重な勉強の場を与えて下さいましたことに、心よりお礼申し上げます。

※敬称略(五十音順)

企業・団体スポンサー様

Altrack	サイバネットシステム株式会社
出光興産株式会社	新宿ラヂエーター
エヌ・エム・ビー販売株式会社	スーパーオートバックス市川店
NTN 株式会社	住鋳潤滑剤株式会社
学校法人 日栄学園 日本自動車大学校	住友電装株式会社
株式会社 IHI	ソリッドワークス・ジャパン株式会社
株式会社今村商事	ダウ化工株式会社
株式会社エフ・シー・シー	タカタ株式会社
株式会社キノクニエンタープライズ	千葉大学
株式会社日下製作所	千葉大学 工学同窓会
株式会社城南キー	千葉大学材料加工学研究室 OB
株式会社デンソー	千葉大学フォーミュラプロジェクト OB
株式会社トーキン	東北ラヂエーター株式会社
株式会社東日製作所	トップラインプロダクト
株式会社トヨタレンタリース千葉	日信工業株式会社
株式会社ハイレックスコーポレーション	日本精工株式会社 (NSK)
株式会社深井製作所	日本発条株式会社
株式会社ミスミ	ビルドダメージ
株式会社メタルワークス	丸紅情報システムズ株式会社
株式会社ユタカ技研	ヤマハ発動機株式会社
株式会社レイズ	有限会社葵不動産
株式会社ワークスベル	有限会社茂原ツインサーキット
協和工業株式会社	レイクラフトレーシングサービス
京葉ベンド株式会社	

個人スポンサー様

芦田 尚道
荒井 俊行
伊藤 裕
紺野 浩之
佐藤 陽
鈴木 明晃
田辺 真之
千葉 健太郎
戸井田 一宣
平柳 光
松崎 哲

Special Thanks

千葉大学工学部
千葉大学工学部実習工場
千葉大学自動車部
ホンダマイスタークラブ
レーシングガレージ ENOMOTO

今後も定期的に私たちの活動の様子をお伝えして参ります。

CUFP2014 活動報告書 Vol.8

発行：千葉大学フォーミュラプロジェクト

URL: <http://www.chiba-formula.com/>

2014 年度プロジェクトリーダー 桂祐樹

Mail: aaka2357@chiba-u.jp